



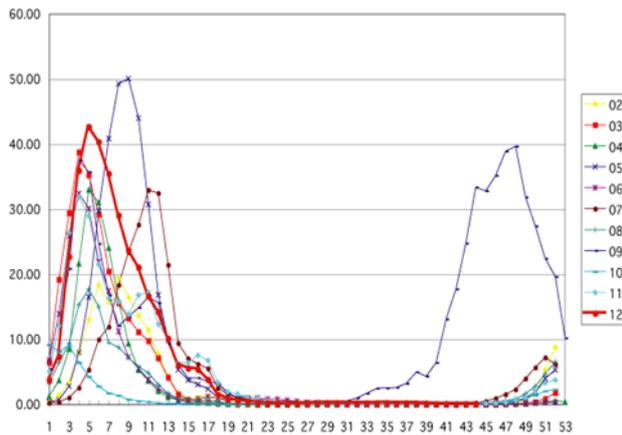
今（2012/13）シーズンのインフルエンザ流行予測

感染制御部

11月19日から21日までの3日間に3000人以上の職員の皆さんにインフルエンザワクチンの接種を実施いたしました。日常業務のお忙しい中ご協力いただいたリクドクターの先生方には大変ありがとうございました。さて、今月は今冬のインフルエンザの流行予測を現在の情報を基にお知らせしたいと思います。

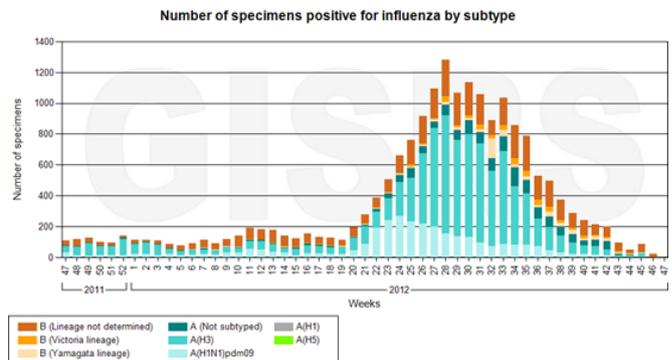
昨（2011/12）シーズンのインフルエンザ流行の特徴

2011/12年シーズンのインフルエンザの流行状況は下図赤線（出典国立感染症研究所）のごとく、過去10年間では2番目に多い患者数がみられましたが、ほぼ例年通りの流行状況でした。



下図に昨シーズンのウイルス型の推移を示します（出典国立感染症研究所）。昨シーズンのインフルエンザは、インフルエンザウイルスAH3 亜型（赤）を主とするB型（青と緑）との混合流行でした。2009年に出現した新型インフルエンザA(H1N1)pdm09（以下AH1pdm09）（黄）は、昨シーズンは、ごく少数の流行にとどまりました。

が先行して流行するので、南半球の流行状況を観察すると、今冬の北半球の流行の予測も可能となります。下図（出典WHO）に南半球のウイルス株の報告を示します。この情報から、今冬も昨シーズンと同様AH3 亜型を主とするB型との混合流行であることが予測されます。



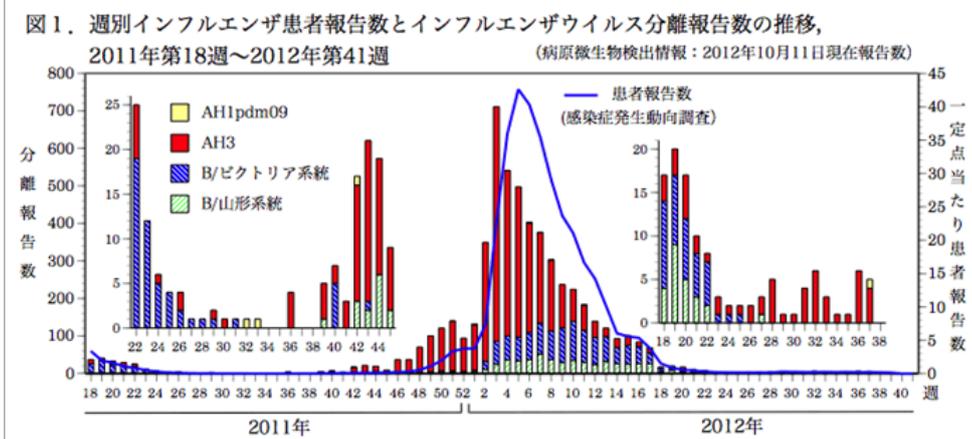
今シーズンの流行予測

以上の情報から、今シーズンも昨シーズンと同様、AH3 型とB型の混合流行となり、AH1pdm09いわゆる新型豚インフルエンザは少ないと思われます。症状や毒力はウイルスの型によらずほとんど同じのため昨年同様の規模と病態であると思われます。

一部注目している情報としては、夏の間沖縄県で流行したAH3ウイルス感染では、これまでのインフルエンザウイルスの主に小児に感染するという特徴とは異なり、成人特に高齢者に多く感染したという報告です。インフルエンザは高齢者が罹患すると、続発性の細菌性肺炎などを起こし、重症化や予後が不良となるため、この傾向がこのシーズンの特徴となれば、結果的にこれまでよりも相対的に毒力の強いウイルスに変わったということになります。

タミフルなどの抗ウイルス薬に対する耐性についてはごくわずかの株にしか確認されていない状況で、現時点では臨床的に問題になるレベルではありません。

*** 追加情報：**9月のICTマンスリーで紹介した中東で確認された新型SARS類似コロナウイルスによる感染者が、新たにサウジアラビアで3名、カタールで1名診断されたという情報がWHOから11月23日に更新されています。この感染症からも目が離せません。



今年の南半球の流行状況

南半球では、北半球が夏の間冬となり、インフ

ル